平成28年度　第５回大阪府環境審議会温暖化対策部会　議事概要

１．日　時：平成29年2月23日（木）　16～18時

２．場　所：國民會館住友生命ビル12階小ホール

３．議　事：気候変動の影響への適応について【資料１】【資料２】

４．委員からの意見要旨

気候変動の影響への適応について

Ⅰ 気候変動の影響への適応に係る国内外の動向について

【委員】

○温暖化対策は、緩和だけでは間に合わない段階。自らが環境にあわせていく（適応）

ことが必要な状況になっている。その深刻さ（適応の必要性）が伝わる書き方が前半
部分に必要。

○報告素案を読むと適応が大事だということはわかるが、適応とは何かの説明がないの

で、適応についての説明が欲しい。

○パリ協定でも、緩和の話が主に取り上げられるが、適応を進める取組みについても合

わせて書かれている。締約国会議でも、途上国は適応のためのコストを温室効果ガス

排出国に求める議論がなされている。国際的にも緩和と適応の両方を動かしていくと

いう考え方になっているというような書きぶりが必要。

Ⅱ 大阪府域の概況と気候変動について

　【委員】

○地域・気候・人口等のオリジナルな大阪の情報があった上で、熱中症等の影響が現れ

てくる部分の記載があった方が、分かりやすい。

○熱中症という特殊な内容が唐突に出てきているという印象。
○Ⅲにつながることであるが、大阪の熱中症搬送者数は平成28年が約3,700人とのこ
 とだが、最高で１日に100人程度が救急車で搬送されていることについてどのように
 捉えるか。搬送が必要ないような軽い症状の人、重篤な症状に陥る人もある。搬送者

数だけでなく、搬送された方の重症度の情報も加えてほしい。
○そもそも大阪は何故熱中症が多いのか。

【事務局】

10万人あたりに換算するとそれ程多くないが、人口が多いため搬送者総数は全

国の中でも多くなっている。

【委員】

○熱中症はこれから増える方向にいくと思われるので、より減らす取組みが必要。生活

スタイルとの兼ね合いもあるだろうが、何故搬送される人が増えているのか。

○生活習慣、年齢、どれくらい屋外にいるか、水分の摂取量などいろいろなことが関わ

　ってくる。救急車で搬送された場合に、昔は単なる過労と診断されていたものが、現在は熱中症と診断されているというような要素もあると聞く。暑さへの慣れというのもある。部活中や仕事中、もしくは家の中で倒れる等、場面により適応策も変わってくると思うので、どのような状況で熱中症を発症するかの情報が欲しい。

【事務局】

熱中症に関するデータについて、情報収集に努める。

【委員】

○平均気温の推移により温度が上がっているということはわかるが、影響が出てると

想定される夏（8月）の最高気温や最低気温、あるいは冬の最低気温も追加すること。

Ⅲ 大阪府域における適応の方向性について

１ 大阪府域における適応の意義

【委員】

○いきなり適応の必要性を述べており唐突感がある。まず、大阪で気候変動により何

が起きるかのイメージがあるとよい。

【事務局】

分野別の前に簡単にまとめた概念図のようなものを追加する。

　【委員】

○適応の必要性については、気温が他地域に先んじて上昇していることもそうだが、大

阪は都市規模が大きいこと、国際都市であり国内も含め拡散・流入といった交流の点

からも影響度が大きいことも明記しておくべき。

○（３）で「緩和と適応を両輪として進めていくことが重要」とあるが、その前の文脈

をみると、緩和するために適応があるようにも読め、論理にブレがあるのではないか。

適応を積極的に進めていくべきであるので、そのような文脈にすべき。

２ 分野別の影響と適応の方向性

　【委員】

○分野別の影響の記載があるが、想定されるリスクに漏れはないか。

【事務局】

いろいろなことが起こりうる。報告書はその一例を記載したものにせざるを得
ないと考える。

　【委員】

○絶対に落ちている項目はあると思うので影響に関する調査・研究というのは書かない
といけない。今の時点では重要なものが落ちていないようにすることが必要。

○産業・経済分野において、電力需給についての取扱いは、これくらいでいいのか。

○気温が１℃上昇しても、エネルギー消費量は大きく変わらないと言われている。冷房

を使用しなかった箇所で、新たに冷房を使用することでエネルギー消費量が増えたの

が今まで。冷房を使用する箇所が飽和状態になっているのか、定量的に示すのは難し

い。ピーク対策として、夏に急にエネルギー消費が上昇するということへの対応は必

要である。

○ヒートアイランドに関することは２箇所で出てくる。健康分野の方がシビアな内容。
都市生活分野の方は、まちづくりや住民活動を盛んにするというようなことがもう少し書けないか。

○本報告素案は、気候変動の影響に対する適応となっているが、熱中症に限らず、府民生活・都市生活の分野は、地球温暖化にヒートアイランド現象も加味して考える必要がある。ヒートアイランド対策となると、緩和も適応もあるので、もう少し具体的な

内容を記載したほうがよい。クールスポット整備は大事。
○建築物は一度建てると50年以上使用することになる。50年後の気候変動に対応する
 ことが求められるため、建築物における対応があった方がよい。

○今回は適応の方向性についての検討なので、具体的な対策ではなく、建築のあり方について検討が必要というような内容でよいと考える。詳細を具体化するにはこれから

個別の議論が必要なところ。
○デング熱については、媒介する蚊が越冬できるかどうかがポイント。そのような状態

になっているのか。
○デング熱を含む感染症は、国の適応計画においても、緊急性や確信度が△（中程度）

とされている。その深刻度が分からない。

○あまり深刻度は高くないと思われるが、文化的な側面への影響はどうか。サクラの開

花時期が早くなっていたり、クマゼミが増えていたりすることなども影響があるかも

しれない。

○セミの話はそれくらい生態系を変えてしまったということ。ミクロな世界での生態系の変化は何かに影響を与えると考えられる。サクラの開花時期など、府民に対して身近な事例で周りが変化していることを知らせることが大事で、報告の中で前半部分に出してもらうと伝える力が強くなる。

３ 適応の推進にあたっての考え方

【委員】

○想像し得ない現象が起こりうるので、各方面に対してモニタリングを実施し、分析に必要なデータを取っておくことが必要。

４ 全体を通じて

【委員】

○大阪府の場合は地球温暖化に加えてヒートアイランド現象が加味されるので、重大

影響が予想されるところについては、もう少し踏み込んだ記載が必要ではないか。例

えば、熱中症については1日100人くらいが搬送され、高齢者の死亡のニュースも見

られるということをどうとらえるか。東京で騒ぎになったデング熱などの感染症が大阪でこの夏に出てもおかしくない。ゲリラ豪雨で排水の弱いところでは洪水のおそれがある。すぐに適応策を打つのか、データを集める段階なのか。

○踏み込んだ内容にすることに賛成。緊急を要するものは特別扱いしてもよいのではな

いか。そこから切り崩していくのが府民の意識を高めるためにも一番いいやり方では

ないか。

○踏み込むにしてもデータがないと難しい。最近は屋内での熱中症が注目されている例

も多い。

○高齢者だけでなく、女性で冷房をかけないという人も多い。

○国は住宅の冷房化を推進しているが、冷房をかけないと家の断熱化が熱中症を促進し

てしまう。

○鉄筋コンクリート製の府営住宅には、冷房は普及しているのか。

【事務局】

関係のデータを調べて、別途相談させていただきたい。

以　上